

【ソウル＝小倉健太郎】大韓航空の当時の副社長が自社機のサービスをとがめて搭乗口に引き返させた問題に対し、韓国で批判が広がっている。オーナー経営者の娘が過剰な対応を強いた問題は「創業家一族の横暴」とみられ、矛先は他の財閥にも向かっている。

「娘に対する教育が間違っています」。大韓航空を傘下を持つ韓進グループの趙亮鎬（チョ・ヤンホ）会長は12日、大韓航空の本社で記者会見し謝罪した。娘は副社長を辞任した趙顕娥（チョ

「創業家の横暴」に批判

大韓機、前副社長命令で引き返し

12日、大韓航空本社で謝罪する韓進グループの趙亮鎬会長（写真上）と韓国国土交通省に出頭した娘の顕娥氏（ソウル）＝共同



・ヒョナ）氏だ。た趙氏はナッツを袋ごと激怒し、機体を搭乗口にきっかけはナッツの出渡した乗務員に「マニュアル戻させて責任者を降ろし方だった。5日、ニュアルが守られていない」とたという。「ナッツリターン」も呼ばれ話題に向かう大韓航空機のフんだがすぐにマニュアルになった。対応は後手に回った。

他の財閥にも矛先

趙氏は9日に機内サービスなどを自宅捜索した。ス担当などの役職を退く。韓国メディアは他の財と表明したが、副社長は閥オーナー一族の言動も続けることため批判が批判している。中堅財閥収まらず、翌10日に副社長職からの辞任も迫られ、長は2007年、息子のた。系列会社も含めてすべての役職を辞めることになったのは12日だ。別財閥にして暴行した。別の財閥国土交通省は機長が乗務員を指揮監督すると定めた航空法などに違反した疑いがあるとして調査中だ。12日には趙氏自身、足元の韓国は成長率が同省に出頭して記者団への批判は、経済を勢いに「調査に誠実に応じた」と語り、乗務員らに謝罪する考えも示した。検察は11日に同社の本社も一因のようだ。